

1月19日 基本的対処方針分科会後の尾身会長による会見要旨（全国知事会まとめ 抜粋）

■冒頭説明

今日の基本的対処方針分科会では、政府から13地域を重点措置の対象にしたいという諮問があった。だれも異論がなく全員一致。残りの時間は、具体的に何をやるべきかという議論が皆の問題意識だった。

共通なのは、今までやってきたようなことをそのまま踏襲することではなく、オミクロン株の特徴にふさわしい効果的メリハリのついた対策を打つ必要があるのではないかということがコンセンサスであるということ。

メリハリのついた効果的な対策とは一言でいえば、いわゆる人流抑制ではなく、人数制限というのが一つのキーワードになると思う。

人数制限というのは、なぜそうかという、オミクロン株が急激に増えたものを疫学調査で分析すると、ほとんどのケースが大声を出したパーティー、会食、家でも起こる。いろいろな場所で起こる。感染のほとんどの部分を占めている。

大声を出すパーティー、酒、マスクをはずす、換気も悪い。これらのリスクが高いことがほぼわかっている。ゼロコロナにしたいわけではなく、ピークをなるべく早く下げることが目標で、例外的に一例一例つぶすより、数が多いクラスターが起きないようにすることが重要で、感染リスクが高いとわかっている場面での人数制限を、皆で努力することが求められるのではないか。

Q.「人流抑制より人数制限」ということであれば、飲食店の時短や休業要請はあまり必要なくなるといふことか。

A. 飲食店については、今回の状況は国も自治体も市民も事業者もそれぞれ工夫してできることがあるし、やっていただければと思う。

オミクロン株については、世代間の差が大きい、潜伏期間が短い、重症化率が低いという特性があるが、第6波においても、クリスマスや成人式のあとの大声でのパーティー、会食が起きている。結局それらにより、狭いところに人が密集する3密の環境になる。飲食店では、換気や人数（の制限）がものすごく重要。デルタ株と変わらず、大人数、大声、換気が悪い、不織布マスクがないといったことが感染の要因であるとはっきりわかっているので、飲食店だけでなく皆ができるメリハリのついた対策について、ちょっとした期間努力することが求められている。

Q.先ほど、4人という数字が上がっていましたが、これが専門家の見解として、統一見解でえられた人数なのか。またそれについて統一の見解として、メッセージ周知を行うということと言質がとられたのか。

A. 「4人」とは、例えば今東京都が「4人」と言ってるから申し上げたのであって、本日、「4人」という数字を議論したわけではない。

ポイントは、これは日本だけではなくて、今オミクロン株というのは、実は今、外国で、急速に拡大しているが、ヨーロッパなんかを見ると、そういうふうに感染拡大が爆発的にいってるところと、比較的コントロールできているところがある。

全く感染をゼロにできている国はない。比較的うまくコントロールできている国は、やっぱり人

数制限とか、しかるべき対策を行っている。結局は、この感染症というのは前から申し上げているように、人から人に移る。これもわかっている。

その状況を減らすためには、やっぱり人数を制限し、混雑したところに行かないという、当たり前前のことに戻る。このことについて、みんなちょっと（努力すれば）、こういうことがずっと続くとは、思わない。

いずれブースター接種も行われるし、経口薬も出てくるから、とにかく早く下げる努力を、今やらないと、もう医療の逼迫が起き、沖縄なんかも外来を断るぐらいの状況が始まってしまっている。

そういうことが、他の都道府県でも起きないように、今、国も一生懸命頑張っていると思いますので、一般市民も、これはみんなの問題だってこれ感染があると、例の一番今回の、インパクトとしては、やっぱり、欠勤者が出てしまうということ。

これはやっぱり、誰のためにも会社のために、個人のためであり、限られた社会のためでそういう、意識を、みんなで共有、することが今この短期間でもいいから、求められてそうするとまた少しずつ、元に戻るという感じがする。

だけど今回は何でも全部やめるということは、ステイホームなんて必要ないと思う。

それで、だからこういうリスクの高いところに集中して、みんなで気をつけるということだと思う。

Q.人数制限を講じたとしても、結局店内が満員となってしまったら意味は乏しいように思うが、どう考えるか。

A. 私の趣旨は、3人とか2人とかのグループが何グループ来てもいいですよっていうことではない。

空間の中で、グループ間の距離を離し、換気をよくすることは前提。しかし、今、我々が申し上げているのは、今回は、オミクロン株の特徴として、ステイホームとか、外出自粛とか、店を全部閉めるということは必要ないという意味。人数制限をかけ、それぞれのグループが、いつもいる仲いい人で、皆さん検査もしているということが理想的だけれども、そうでない人たちも含めた人数が多いグループが増えるほど、感染リスクが高くなることは分かっている。そして、そうしたグループがいっぱいあって、全体として見たら混んでいるという事態は避けたほうがいいことも間違いない。だけど、経済社会を少しでも動かすためには、お店を全部閉めるよりも、そうしたコントロールをしっかりと行う。それが店のためにもいいのではないかという意味。

Q.ワクチン検査パッケージによる対象者全員検査を行ったとしても人数制限をかけていくべきとの考えか。

A. お店も含め、様々なリスクのある場面はあるが、まずはリスクが高いところと低いところを分けて考えたほうがいい。

同じイベントであっても、今までの経験で、野球だとかサッカーのJリーグっていうのは結構、しっかりやって、随分ガイドラインをやって、あんまり感染が広がったということはないですよ。そういうところには、今まで通りのガイドラインを使ってやってくれば、それを今ゼロにする必要はない。実は、感染リスクが高い場面でもう皆さんは分かっているはず。感染が急拡大している今この時期には、やっぱり私は感染のリスクの高いところはなるべく、控えてもらうということが重要だと思います。で、万が一やるんだったら人数を小さくしていただければいいんじゃないかと思いますね。

Q.大声を出さないようなデパートなどの大型商業施設やアミューズメントパーク、上野動物園のような施設については、営業してもリスクは低いのではないか。

- A. 基本的には、マスクの着用・距離の確保・大声防止・換気が大事。先日も、普通のショッピングよりも大声でしゃべり、人が多いデパ地下で感染が広がった事例があった。そういう状況を避けてくださいということ。一方、例えばクラシックコンサートについては大声を上げないで距離をとっている。拍手をしたとしても上に飛ばない、そういうところはリスクが低いのではないか。どこでも感染が広がっているわけではない。それがメリハリのつけ方が大事だと思う。